

Sメータ表示設定

機能

電波の強さを表示するSメータ表示を消えにくくすることで、瞬間的に発射される電波の強さを見やすくすることができます。この機能を「通常」以外に設定しても受信性能に影響することはありませんが、設定値を長くするとデータ信号のような短いパーストを連続受信するときに、受信している実際の信号強度とSメータの表示にずれが生じることがあります。

操作方法

- 1、セットモードに入ります。
- 2、「表示設定」のサブメニュー「Sメータ表示設定」にします。
- 3、ダイヤル(下)を回して、Sメータが消えるまでの時間を調節します。見やすいと思われる時間を選んでください。ダイヤル(下)を回して「通常」「10ms」～「200ms」を選択します。設定値を大きくするほどSメータのセグメント表示がピーク表示からゼロに向かってゆっくり戻るようになります。

参考

ACARS・AIS等のデータ通信やラジオテレメトリーと呼ばれる野生動物の生態調査に使用されているピーコン電波のように、短く早いパースト信号の強度視認などに応用できます。

IQ信号のシフト出力

機能

受信ソフトの中には、実際の周波数より特定の幅を上下にずらしてIQ信号を入力しないと動作しない物があります。目的信号の周波数とIQ信号出力時の周波数がずれていると直感的に操作しにくくなるので、この差をIQ信号出力側で補正するためのパラメータです。

操作方法

- 1、セットモードに入ります。
- 2、「受信設定」のサブメニュー「IQ信号出力」にします。
- 3、ダイヤル(下)を回して有効、を選びます。この状態でIQ信号が出力されます。初期値はシフト0kHz(無し)で、VFO周波数のIQ信号をそのまま出力します。
- 4、もう一度「SHIFT/0」キーを押すと0kHz表示が白黒反転しますので、ダイヤル(上)を回してシフト幅を選択します。設定出来る値は-24kHzから+24kHzで1kHzステップです。「SHIFT/0」キーを押すと設定が確定してIQ信号を出力、表示が元に戻ります。

参考

設定したシフトは電源を切ったあとも記憶されますので、別の受信ソフトを使う場合は改めて設定し直して下さい。